

令和5年度事業報告書

(令和5年4月1日～令和6年3月31日)

事業の状況

今年度はようやくコロナウイルスが終息に向かい、パンデミック以前の状態に近い形で事業を行うことが出来た。平安書道研究会の受講生の新規募集や例会への出席率もほぼ回復したが、連合書道展及び関東女流書展への出品点数などは依然として低迷した状況で、収益に多くの影響があった。

1. 書道文化の普及（第4号事業関係）

(1) 書道文化の普及のための春敬記念書道文庫収蔵品の貸し出し

1. 平安書道研究会（主催：一般社団法人書芸文化院）令和5年4月～令和6年3月
毎月1回、第877回～第888回を実施した。各回テーマに沿った古筆を5～6点ずつ露出展示。
2. 第62回現代かな書道専門講座（主催：かな書道作家協会）令和5年4月29日
伝小野道風筆「絹地切」、伝藤原行成筆「針切」、など5点の貸し出し。
3. 一般社団法人・現代書道院（代表・竹田晃堂先生）主催の古筆鑑賞会 令和5年10月20日
伝紀貫之筆「高野切第一種」、伝藤原行成筆「関戸本和漢朗詠集切」、伝藤原行成筆「法輪寺切」の3点を貸し出し。
4. 東京富士美術館開館40周年記念事業「源氏物語 THE TALE OF GENJI」展（令和6年2月24日～3月24日）に「源氏物語絵詞断簡（松風）」、「西本願寺三十六人集 石山切（伊勢集）」など4点の貸し出し。

(2) 写真の掲載許諾

1. (有)書芸文化新社発行の『古筆カレンダー2024年』に空海筆「金剛般若経開題」、伝藤原行成筆「和泉式部続集切」、伝藤原行成筆「松籟切」、など6点のカラー掲載を許諾。
同じく令和6年3月25日書芸文化新社発行の『楷書の魅力-技法と表現』（原田凍谷著）に「弘武将軍碑」、「牛櫛造像記」、「乙瑛碑」など10点の写真掲載許諾。
2. 一般財団法人日本書道美術院発行の『書道美術 2024年1～12月号』の表紙写真として伝西行筆「曾丹集 榊形本切」及び『みんなの書 2024年1～12月号』の表紙写真として、高鳳翰「隸書四言対聯幅」より『學』を許諾。
3. 一般財団法人日本書道美術院発行の『書道美術 2024年1月号』の口絵として「北海相景君碑」など7点の掲載を許諾。
4. 淡交社発行『月刊なごみ』（令和6年2月号）に「西本願寺三十六人集 石山切（貫之集下）」などカラー2点掲載許諾。
5. 芸術新聞社『墨』（令和6年286号）に伝西行筆「小色紙」をカラー掲載許諾。
6. 教育出版発行の教師用指導書『書道I教授資料 学習指導の研究』（令和5年4月発行）WEB配信を許諾。

7. 正筆会競書誌『正筆』（令和6年4月1日発行）に伝藤原行成筆「古今集切」を掲載許諾。
8. 書道総合サイト「游墨舎ちゃんねる」において伝紀貫之筆「高野切第一種」、伝藤原行成筆「関戸本古今集切」、藤原佐理筆「国申文帖」、伝藤原行成筆「古今集切」など書芸文化院の古筆の名品12点を連載企画として紹介。

2. 書道に関する展覧会の開催（第5号事業関係）

(1) 「第74回連合書道展」、「第37回関東女流書展」の開催

書道の奨励・育成を目的にした「第74回連合書道展」を令和5年9月1日より8日まで東京都美術館において開催した。参加団体は12団体。総出品点数は409点（前回440点）。

観客入場者数3505名（前回3375名）であった。今年度も席上揮毫を行わなかった。

また、特別企画として、「第37回関東女流書展」を開催した。関東地方で活躍する女流書家による展覧会で、漢字・仮名・新書芸などの各部門に183点（前回184点）の出品があった。

連合書道展の一環として行っている平安書道研究会受講生による第5回「臨書コーナー」は18点（前回18点）の出品があり、令和5年度が第3回となる「学生部展」は25点（前回28点）の出品となった。

令和5年度も東京都美術館講堂を会場に客員講師による講演会を聴講料2000円で開催した。

講師は笠嶋忠幸先生で演題は「現代書と古典表現の雅」、約100名の聴衆を集めることが出来た。これは書道展だけでなく、広く書道の普及に努めるという東京都美術館での開催趣旨にも合致し、同時に展覧会来場者への書道への関心醸成の一助にもなると考え、令和3年度より実施した企画である。

3. 書道専攻者の養成（第7号事業関係）

(1) 平安書道研究会の開催

昭和25年から、毎月1回古筆を出陳して鑑賞し、日本書道史研究に必要な専門的内容を学ぶ平安書道研究会を開催。令和5年度は、令和5年4月（877回）から令和6年3月（888回）まで、会場を東京国立博物館平成館大講堂及び五島美術館などで開催した。毎回130名を越す熱心な参加者を得ている。期末テスト・卒業レポートなどで学生のレベルの向上が見られるのは喜ばしいことである。

「臨書実技講座」は令和5年9月24日に大林靖芳先生と大賀晴苑先生、渡辺貴彦先生の3名の講師により、受講生30名で実施。課題は「継色紙」と「高野切第三種」とした。平安書道研究会での添削指導とは違った指導を受けることが出来、毎回好評である。

令和2年5月に入学した第64期生4名が令和5年5月に3か年の全課程を終えて卒業した。

令和5年度の第67期入学生は34名であった。講師の先生方や正会員の先生方の積極的なご支援により多くの入学者を迎えることが出来た。

4. その他

(1) ホームページの充実

ホームページの認知度も上がり、受講生からの反応も目立つようになった。今後も内容の充実を図り、受講生のみならず一般への重要なPR用ツールとして活用していきたい。

URLは <http://shogeibunkain.jp/> である

(2) 講師の先生を囲む会の開催

令和6年3月3日開催の平安書道研究会終了後、東京都美術館のレストランに於いて、4年ぶりに「講師の先生を囲む会」を開催した。客員講師と臨書指導講師及び理事、正会員の総勢62名の方々(内受講生46名)が集い、熱心な意見交換も含め和気あいあいのうちに2時間はあっという間に過ぎた。受講生からも普段なかなか話が出来ない講師の先生方と交流が出来て、とても楽しかったという感想が多く聞かれた。

以上